

1 単元名 「遊子の防災大作戦！」

2 単元の目標

- 自然災害や災害時の備え、対応などについて、防災上の知識を理解し、学んだ内容を他者に分かりやすく伝えるために防災だよりにまとめることができる。

(知識及び技能)

- 学習した内容や自分の経験等をもとにして課題を見いだし、下級生や家族、地域の方のために防災に関する備えや方策を考えたり、よりよいまとめ方や方法を考えて防災だよりを通して伝えたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力)

- 自分の命を守る、遊子小学校区で暮らす人たちの命を守りたいという目的意識を持ち、意欲的に他者へ学んだことを発信したり、防災に関して学習したことを分かりやすく伝えようと防災だよりにまとめたりすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元「遊子の防災大作戦！」は、学校裏の避難路を核として学習を展開する。現在、津波に対する避難訓練では、学校裏の避難路を活用している。この避難路は、令和元年度から地域住民や教員によって造られ始め、たくさんの方の力により、昨年度末に現在の形にまでになった。まず、その避難路が出来上がるまでの過程を調べ、学習を通して作成に携わった方たちの願いや思いを知る。そして、今年度9月10日に「避難路完成式典」「遊子校区地震・津波想定合同自主避難訓練」が行われるのに合わせて、式典でこれまでの学びを発表する。内容は、避難路完成に至るまでの経緯、作成に携わった人へのインタビュー、避難時に活用できる「イエローフラッグ」(児童が名称を考案)や地域住民へ配付した資料の活用方法についてである。その後、防災に関して自分たちにできることは何かを考え、避難路の維持、防災マップづくり、多発する自然災害の要因について、学びを深める。最後に、学んだことを地域や下級生に役立ててもらうために『「遊子の防災大作戦！」だより』を作成し、学習発表会で学んだことを他者へ発信し、作成した防災だよりを地域住民へ配付する。防災に関して受け身の姿勢ではなく、自分たちにできることを考え、地域に学びを発信していく機会を設けることで、積極的に社会に参画しようとする意欲を高めたい。また、総合的な学習の時間と他教科の学びを関連付けた学習展開、外部人材の活用など、様々なつながりを意識した学習を展開したいと考えている。

(2) 児童観

本学級に在籍している児童は7名で、これまでに複式学級の経験はあるが、学年のメンバーは変わっていない。児童は学習課題に真面目に取り組む反面、多様な意見や考えに触れる機会が少なく、創造的な思考や活動は苦手である。

防災学習については、これまでに自然災害に関する知識や災害時における避難方法等につい

て学んできている。しかし、それらの学習は受動的なものが多く、実際に災害が起こった際の実践力や事前の備えは不十分で、主体的で能動的な学びには至っていない。実際の自然災害を目の当たりにしたらどう行動すればいいか、様々な自然災害や状況に対応しなければならないことに大人でも不安を感じるが、児童からも不安の声が聞かれた。具体的には、知識の乏しさや経験のなさから、実際にどのようなことが起こるかということについて想像できないといった声や、実際の災害時に学習したことを生かして、命を守るための行動が取れるのか自信がないといった内容であった。

## (2) 指導観

本時「防災の大切さを発信しよう（5／9）」では、これまでの学習を他者へ発信するためにまとめた制作物を、外部の方にプレゼンし、評価・改善につなげる学習を行う。小単元「防災の大切さを発信しよう」では、「『遊子の防災大作戦！』だよりを作ろう」というテーマで、学んだことをまとめ、地域へ発信する活動を通して、自分自身、そして、家族や地域の方たちの防災意識を高めることを目指している。児童は、これまでの学習で、避難路維持グループ、防災強化グループ、自然災害対策グループに分かれ、継続した学びを愛媛新聞社の作成した「クミハン」を活用して新聞形式にまとめ、地域に発信するために準備を進めている。本時は、防災だよりのプレゼンを通して、自分の思いや考えを相手へ伝えたり、家族や地域、外部の方からの評価や改善点を得たりしながら学習を展開する。その中で、新たな視点や評価により、さらによりよいものに仕上げようとする意欲を高めたい。本時だけでなく、学習活動全体を通して、様々な方との協働した学びにより、地域の方の願いを知ったり、専門的な方の意見を聞いてより深い学びの場につなげたりできるよう展開を工夫していきたい。

## (4) ESDとの関連

### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…歴史や様々な事象等には、全てつながりがあり、現在の状況が出来上がるまでにはたくさんの方の力があつたことを知り、それを持続させるためには自分たちの力も必要であること。

公平性…自分さえ、今さえよければいいという考え方で生活続けることは、ますます、環境問題が進み、自然災害が多発してしまうことにつながり、みんなが安心して過ごすことができなくなってしまうということ。

責任性…災害が起きたとき、また、それまでの備えを行うにあたって他人任せにしている自分の命や大切な人の命は守れないという意識を持ち、まず、自分事として考え、自分から行動を起こすことが大切であるということ。

### ・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

#### 批判的に考える力（クリティカルシンキング）

調べ学習から実際の災害時に、今の備えが本当に有効かを見つめ、よりよい方法について考えることができる。

#### 未来像を予測して計画を立てる力

これまでの資料やインタビューから活動や関わった方たちの考えや思いを整理し、今後

のために自分たちに何ができるかを考えることができる。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

他者の意見を聞いたり、自分の考えや思いを話したりする中で、物事をより多面的・総合的に考えて、どのような問題点があり、その改善策について考えることができる。

・本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代間の公正

遊子を守り、子どもたちのために避難路を作った人たちの苦労や努力に感謝し、遊子の人々の命を守るために次の世代へもきちんと引き継がなければならない。

世代内の公正

美しい遊子や人々を守るための活動は世界とつながり、環境問題に苦しむ人たちのことも考えて、自分たちの生活や行動を振り返って改善する必要がある。

・達成が期待されるSDG s

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

#### 4 単元の評価規準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① インタビューや質問紙などによる調査や話し合いを、目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>② 自然災害や防災について知るとともに、災害から身を守るための方法や考え方、自分たちとの生活の関わりについて理解している。</p> <p>③ 命を守る意識と防災に関する認識の高まりは、学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>② 自然災害や災害時の対応について、客観で正確なデータ収集や適切な課題設定により、解決に向け自分たちにできることを見通している。</p> <p>③ 活動を通して学んだ防災に関する内容や、防災と自分たちの生活について、資料や動画にまとめ、表現している。</p>	<p>① 自然災害や防災に関心を持ち、生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。</p> <p>② 学習を通して得た知識や他者の考えや意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 自然災害や防災と自分たちの生活との関わりに気付き、自分の命を守る行動や日々の取組の重要性を地域へ伝えようとしている。</p>

#### 5 単元の指導計画（全 25 時間）

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動 ○学習への支援	知	思	態	教科等との関連
避難路を通して学ぼう（6）	1 学校裏の避難路ができた経緯を調べる。 ・学校裏には作れないと言われていたのに、たくさんの人のおかげで完成した。			①	【特】「避難訓練」 【道】「青の洞門」

	○避難訓練の場所が変わったことから学習課題を立て、意欲を持って考えようとさせるとともに、完成までの様子をイメージしやすいように写真や動画を利用する。				
	2 避難路のすばらしさを多くの人に紹介する。 ・完成式典を利用して、たくさんの人に避難路について伝えたい。 ・どうすれば分かりやすく紹介できるだろうか。 ○これまで取り組んだ学習を3グループ（避難路完成までの経緯・関係者へのインタビュー・イエローフラッグ）に分かれて発表することを提案する。	①	①		【道】「土石流で救われた命」 【行】「避難路完成式典」
自分たちにできることってなんだろう（10）	3 避難路を維持するにはどうすればいいか話し合う。 ・地域の方に頼っていていいのだろうか。自分たちにできることを考えたい。			②	【社】「震災復興の願いを実現する政治」
	4 災害時に生かせる防災マップを作成する。 ・実際の災害時に、自分たちはどう行動すればいいのだろうか。地域の実態はどうだろうか。 ○防災に関するより具体的な知識を得られるよう、外部講師を招く。	③	②		【特】「避難訓練」 【算】「図形の拡大と縮小」
	5 自然災害が多くなっているのはどうしてか、調べる。 ・自然災害が多発している理由は何だろう。自分たちの生活に問題はないのだろうか。	③	②		【国】「私たちにできること」理科・家庭科の各単元と関連
防災の大切さを発信しよう（9）	6 取組を振り返り、学んだことを地域のために生かす方法を考える。 ・学んだことを発信するために防災だよりもまとめよう。			③	【道】「お母さん、お願いね」 【国】「いちばん大事なものは」
	7 発信する内容をまとめ、改善を加えながら、よりよいものに仕上げる。 ・どのようなまとめ方をすれば、より分かりやすくなるだろう。 ○よりよいものになるように、他者からの意見を聞く場を設ける。（本時）		③	③	【国】「利用案内を読む」
	8 『「遊子の防災大作戦！」だより』を完成させ、地域へ発信する。 ・これが下級生や家族、地域の方の命を守る役に立つといいな。 ・自分にできることをもっと考えてみたい。	③		③	【国】「みんなで楽しく過ごすために」 【道】「せんばいの心を受けついで」 【行】学習発表会

6 本時の指導

(1) 目標

制作物のプレゼンを通して、自分の思いや考えを伝えたり、家族や地域、外部の方からの評価や改善点を得たりしながら相互交流を行い、よりよいものに仕上げようという意欲を高める。

(2) 準備物

学習の成果物、タブレット端末、ワークシート

(3) 展開

学習活動	時間	児童の意識の流れ	○指導上の留意点◎評価
1 本時のめあてと流れを確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災について、学んだことを上手にまとめることができたな。</li> <li>・ みんなに見てもらって、もしものときに備えて役立ててほしい。</li> </ul>	○ これまでの学習を想起させ、よりよいものを完成させようとする意欲を高める。
よりよい『遊子の防災大作戦！』だより」にしよう			
2 各班でプレゼンを行い、聞き手のアドバイスや感想等から、よりよい方法や改善点を探る。	27	<p>① グループでまとめた内容をプレゼンする。</p> <p>② 聞き手が、内容に関する感想やアドバイスを伝える。</p> <p><b>避難路維持グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難路が出来上がるまでをまとめておくことで、作成した方たちの思いを伝えることができると考えた。</li> <li>・ 現在の取組をよりよいものにするために、様々な人が毎年の整備に関われるように提案内容を考えた。</li> </ul> <p><b>防災強化グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区の避難場所を写真や動画で紹介したら分かりやすいと思い、資料にQRコードを添付した。</li> <li>・ 防災グッズがどこにどれだけあるかを図面に表して、分かりやすくした。</li> <li>・ もしものときに、学校をどのように活用すればいいかまとめておくと、慌てずにすむと考えた。</li> </ul> <p><b>自然災害対策グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害が増えている理由を伝えることで、自分たちにできることを考えてもらうきっかけになればいいと思った。</li> <li>・ 遊子小学校の取組は、防災にもつなが</li> </ul>	<p>○ 聞き手を3か所に分け、各グループが移動しながらプレゼンを行うよう設定する。</p> <p>○ プレゼンの時間は5分とし、聞き手との交流を4分行うことを伝える。</p> <p>○ 話合いの視点を提示することで、情報の受け手にとってより望ましい内容方法について考えられるようする。</p> <p>○ 話合いの内容は、タブレット端末に記録し、振り返りを全体で確認できるようにする。</p>

		<p>っているということを知ってもらい、より多くの人に協力してもらえたらと考えた。</p> <p>(②の活動より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なるほど。見る人にはそんなふうに感じてもらうことができるのか。</li> <li>・ 写真や動画を付けたことは、やはり、分かりやすく良かった。</li> <li>・ 自分たちでは、思いつかなかったアイデアで、参考になるな。</li> <li>・ 聞いたことをしっかり改善して、よりよいものに仕上げたい。</li> </ul>	<p>◎ 自然災害や防災と自分たちの生活との関わりに気付き、自分の命を守る行動や日々の取組の重要性を他者へ伝えようとしている。</p> <p>(シート・発言内容)</p>
<p>3 防災に関する専門家の話を聞く。</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの学習が、家族や地域、下級生たちの役に立ててうれしい。</li> <li>・ よりよいものにして、早く発信したい。</li> <li>・ 自分たちの学習が、遊子地区の人たちの命を守るために役立つことができるなんてすごい。</li> <li>・ もしものとき、この学びをしっかり役立てたい。</li> </ul>	<p>○ 避難路ができる前から遊子地区について知っている専門家から話を聞くことにより、一人一人の力が防災力を高めるためには必要だという気付きにつながる。</p>
<p>4 学習を振り返り、次時の活動への見通しを持つ。</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のグループでは、こんな話合いや改善点が見つかったのか。</li> <li>・ この内容は、自分たちのグループでも活用できそうだ。</li> <li>・ なるほど。このアイデアはいいな。</li> <li>・ 相手に思いが伝わったり、頑張りを認めてもらったりするとうれしい。</li> <li>・ 何かを形にできることは、おもしろい。</li> <li>・ 私たちの学習が、遊子の人たちの役に立つと思うと、わくわくするな。</li> <li>・ 一人一人の力って、大切だな。</li> <li>・ 今日の学習を生かして、よりよいものに改善したい。</li> <li>・ 地域の人のために、もっといいものに仕上げよう。</li> </ul>	<p>○ タブレット端末を活用し、それぞれのグループで出た内容を確認する。</p> <p>○ 振り返りを発表することで、本時の学びを全体共有し、次時への意欲を高める。</p>

## 7 成果と課題

### (1) 成果

年度初めに単元構想案を作ることで、しっかりと構想を練り、教師が見通しを持って1年間の教育活動をスタートできた。その後、学習指導案やカリキュラム・マネジメントについてまとめることで、より具体的、かつ、計画的に学習活動を展開することができた。そのことにより、様々な教科、単元を結び付け、充実した教育活動を展開することにもつながった。

学習指導案を考える際、ついつい学習活動の細部が気になってしまうが、単元構想案等の作成を通して目指す児童像が明確になっているため、常にそこに立ち返りながら展開を考えることで、活動がぶれることなく必要な内容を精選し、指導案を仕上げることができた。避難路を核とした展開を考え、そこから3つの柱を立てて学習を展開する、また、時数に関しても意識し、時間的な制約の中でどのように学習内容を収めていくかについても事前に全体の学習展開を考え、取り組むことによって計画的に配分して活動を行うことができた。

本時の授業に関しては、ゲストティーチャーを9人招くことで充実した活動になった。当初、人数的に多いかと思われたが、これまでの取組や今後の取組によって必要な方をお呼びすることによって多様な意見を伺うことができ、結果的に児童の学びは深まった。形にこだわるのではなく、なぜこの活動を行うのか、なぜこの方を招くのかといったことを明確にすることにより、教師自身が事前事後の活動のつながりを意識することにもつながった。児童は、カリキュラム・マネジメントにより他教科（国語科、道徳科、算数科等）と関連して学習を進め、取り組んできた内容を防災だよりにまとめたり、プレゼンの資料として使用したりと無理なく学びを深めながら学習を行い、自信を持って本時に臨むことができた。教師も、学習の積み重ねやカリキュラム・マネジメントによる学習の展開により、無理なく、さらに児童の成長を感じる45分間となり、ESDを意識した学習展開の有効性を実感した。

### (2) 課題

今年度、避難路の完成により避難路完成式典を行うことになり、避難路を中心とした学習活動を考え、実施することにした。活動内容を3本柱とし、避難路維持、防災強化、自然災害対策という内容で学びを進めることにより、多様な角度から防災に関する学習を行うことができたが、一つ一つに重きを置き、じっくりと取り組むことが難しかった。他教科と関連することで学びを深めることができ、それほど大変さや時間超過によりそれ以外の学習を圧迫することもほとんどなかったが、よりじっくりと活動を行うためのカリキュラム・マネジメントや学習内容の精選等を行うことによってより充実した活動ができると考える。

また、今年度の取組を次年度以降にどのように引き継いでいくかについても課題が残る。今年度の取組を3学期の学校運営協議会で6年生を交えて感想や成果、そして、課題について話合うことにより、次年度以降の活動のある程度見通しを立てて取り組めるような方向性を付けることも大切だと考える。そうした地域と共に教育活動を考え、展開することが、持続可能な社会の創り手を育てることにもつながると考える。この先生だからできた、このときだからできたという活動ではなく、児童自身が何のために学び、その学びの成果を実感しつつ、学習を積み重ねていくことができるシステムづくりが必要だと感じる。

子どもたちは、これから答えのない時代を生きていく。そのための資質能力とは何か。私自身がしっかりと考え、学校教育目標や研究目標、各学校の特色ある取組を理解して深まりのある充実した教育活動を展開できるように今後も努力を重ねていきたいと思う。



小学校6年生 総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」(全25時間)

現在の学年終了時に目指す姿

「自分の命は自分で守る」を基本として防災に関する知識や実践力を高め、ふるさと遊子を大切に思い、家族や地域の人のために自主的に考えて行動することができることに、自分の力を信じて、他者へ働き掛けることができる。

学校裏の避難路ができて、早く避難できるようになったな。

もしものとき、本当に自分の命を守れるだろうか。

避難訓練(地震・津波を想定)・避難路完成式典準備

令和元年から地域住民や教員によって作り始められた避難路が完成した。令和3年度からは、避難訓練で活用され始め、その後も改善が加えられて、今年度(令和5年)9月に完成式典を行った。その際、避難路について学習したことを発表することとなった。

児童は、避難路が完成するまでのいきさつを知らず、だれの手によってこの避難路が維持・改善されているかも知らない状態だった。式典発表までの準備を通して、この避難路が完成するまでの経緯、作成に携わった人たちへのインタビューを通して、地域の人たちの思いを知り、感謝すると共に、これを作り上げた遊子の人や地域性に誇りを持ち、自分たちにもできることはないかと考えるきっかけづくりをする。そして、式典日には、遊子校区地震・津波想定合同自主避難訓練も行われることから、その際に自分たちで作成した「イエローフラッグ」を地域住民に配布し、活用してもらうことで自分たちにもできることがあると実感し、意欲を高める。その後、防災マップづくり、防災日より作成と学びを継続する。

総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」

○主に養いたいESDの資質・能力

批判的に考える力(クリティカルシンキング)

調べ学習から実際の災害時に、本当に今の備えが有効かを見つめ、よりよい方法について考えることができる。

未来像を予測して計画を立てる力

これまでの資料やインタビューから活動や関わった方たちの考えや思いを知ってふるさと遊子を大切に思う気持ちを持ち、今後のために自分たちに何ができるかを考えることができる。

多面的・総合的に考える力(システムズシンキング)

他者の意見を聞いたり、自分の考えや思いを話したりする中で、物事をより多面的・総合的に考え、問題点に気付いたり、その改善策について考えたりすることができる。

幸せな生活は、家族や地域の人の支えがあるからだ。

自分でできることはなんだろう。今回の学びを次へつなげてほしい。

道徳科(東京書籍)

「土石流の中で救われた命」

自分たちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝する心情を育てる。

「せんばいの心を受けついで」

先輩たちの取組を振り返ると共に、自分たちができることは何かを考え、今回の学習を次につなげようとする意欲を高める。

いつか必ずやってくる大地震に対して、自分たちにはできないことはないだろうか。

今の備えで大丈夫だろうか。

社会科「震災復興の願いを実現する政治」  
算数科「表とグラフ」「図形の拡大と縮小」  
理科「生物の暮らしと環境」他

家庭科「持続可能な社会を生きる」他  
様々な教科の学びをつなぎ、カリキュラム・マネジメントにより総合的な学習の時間の学びと共に深めていく。

国語科「私たちにできること」

資源や環境を大切にすることが防災につながることを知り、自分たちにできることを提案書にまとめる。その提案書は、総合的な学習の時間で作成する防災だよりに内容を含め、相手を意識した防災だよりに仕上げる。また、新聞づくりのこつを学び、よりよいものに仕上げようとする意欲を高める。

